

# 北摂 三田とキリスト教



1877年 献堂時の摂津第三公会(摂津三田教会 HP)

幕末から明治にかけて、北摂の小藩にすぎなかった旧三田藩では

洋化主義が進み、早くからキリスト教に理解を示す旧武士層が多  
くいました。当時は未だ切支丹邪宗門の偏見が根付いていた時期でも  
ありました(切支丹禁制の高札が撤廃されたのは明治六年二月)  
何故、三田において多くの人たちがキリスト教を受け入れていった  
のでしょうか?

また、キリスト者となった三田藩の人たちは、北海道開拓や、ミッ  
シオン系学校の設立・発展にどのように寄与したのでしょうか?

# 明治初期、旧三田藩で、 いち早くキリスト教が受け 入れられたのはなぜ？

## 三田の地理的条件

明治二年 アメリカン・ボード宣教師  
団グリーンたちが横浜に上陸したとき、



横浜はすでに長老派や聖公会の布教が進んでいた。そのため、後発の開港地の神戸が新規の伝道地区として最適のフロンティアに選ばれた。

五年、神戸に来た宣教師たちは居留地で英語教育の名目で、宇治野村英学校を開設した。三田は神戸の北三〇kmに存し、安政五か国条約による宣教師の立ち入り許可圏十里内にあり、六甲山を超えて宣教師が入り込み易い条件に恵まれていた。

## 三田藩主九鬼隆義の先見性

外様の小藩で、財政赤字にあえいでいた三田藩では、最後の藩主九鬼隆義が、積極的な藩政改革に取り組み、人材登用、軍政、財政に、革新的な手法を取り入れた。身分にかかわらず実力ある人材を藩政の中枢に登用。白洲退蔵・小寺泰次郎らを重用した。鎧兜を売り払い最新式小銃で武装した新式軍隊を作り、寺社の特権を廃し租税を改革した。また教育の重要性を認識し、県下最初に郷学校を整備しようとした。藩主



九鬼隆義

隆義は西欧の知識をいち早く導入すべく、自身宣教師にも積極的に接触した。明治五年、有馬温泉に

避暑中の宣教師デーヴィスと親交を深め、宣教医ベレーを九鬼家の主治医とした。明治二十年神戸教会で受洗したとの記録がある。この藩主の姿勢におされて、藩士の中には神戸に来日した宣教師に進んで教えを受けるものも現れた。前田泰一・鈴木清・佐治職(つかさ)はいずれも摂津第一公会(神戸教会)設立と同時に洗礼を受けている。

## 隆義夫人園子の存在

ハイカラ藩主隆義に劣らず宣教師と交流したのは園子夫人だった。有馬温泉滞在中の家族ぐるみの交流のみならず、デーヴィス一家が三田を初めて訪れたときにも子供たちを連れて旅館まで挨拶に行っている。九鬼一家が神戸に転居後も日曜礼拝に参加している。長女肇(ちよう)が亡くなった時キリスト教式葬儀を行い、日本初の英文の墓碑をたてた。三田藩の子女を宣教師に託して教育を受けさせた。



九鬼園子

藩の子女を宣教師に託して教育を受けさせた。

## 旧三田藩士たちの向学心

明治元年蘭学者川本幸民と息子清一が開いた英蘭塾は英語に対する藩士の向学心を刺激し、宣教師に積極的に接触交流しようとする機運を生んだ。英蘭塾生鈴木清・前田泰一・佐治職(つかさ)の三人の旧藩士は、明治五年、避暑のために有馬に滞在していた宣教師デーヴィス夫妻の元を訪れている。この三人は後に洗礼を受ける。このように旧藩の武士階級がキリスト教を受け入れ、これが民衆に広がるという形で、明治八年三田藩陣屋



大広間で摂津第三公会(今の摂津三田教会)の設立が宣言され、一六人がギョーリック師より洗礼を受けた。

## 宣教師の三田での医療活動

宣教師ベリーらは神戸での医療活動を三田にまで広げ、九鬼家の主治医となった。旧三田藩の医師たちもベリーに学び、慈善病院を設立するまでになる。

木村強・竹内玄林・若林元昌・川本泰年



など、ベリーとともに病院設立に尽力した藩医たちの中から、のちに洗礼を受けるものが相次いだ。

## 番外編コラム

白洲退蔵は禁制の聖書を上海から輸入

慶応元年、三田藩大参事白洲退蔵は上海から中国語聖書五冊を輸入。幕府の知るところとなったが、藩主のブレンであった福沢諭吉が幕府に働きかけ、この件を不問にしてくれた。

神戸に進出した旧三田藩士の多くが、兵庫県最初の会衆派キリスト教会(摂津第一公会)設立時の信者となった

明治六年切支丹禁制が解かれ、元町に旧三田藩士前田泰一がキリスト教書店を開いたとき、店の裏半分を日曜学校として礼拝に用いた。同年 摂津第一公会(神戸教会) 設立の時

グリーン師より受洗した十二人のうち四人(佐治職・前田泰一・鈴木清・甲賀フジ)が旧三田藩出身であった。

日本最初の讚美歌集の出版には旧三田藩士が参加している

明治七年摂津第一公会が出版した讚美歌集が日本初とされている。翻訳・創作にはデーヴィス・グリーン・北村元廣・松山高吉とともに旧三田藩士前田泰一が参加している。

摂津第三公会(三田教会)は、兵庫県では神戸に次いで古い会衆派キリスト教会

明治八年、九鬼家陣屋大広間で設立された摂津第三公会(摂津三田教会)は一四五年の歴史がある。このの教会員が北海道開拓に取り組み、日高郡荻伏に建てた元浦河教会も一三八年を経ている。

日本最初のキリスト教新聞の編集長は旧三田藩士村上俊吉

七日に一回発行される雑多な情報という意味で名付けられたキリスト教ジャーナリズム「七一雑報」は、宣教師ギョーリックを中心に旧三田藩士村上俊吉を編集長として、明治八年神戸で刊行された日本最初のキリスト教新聞である

# 幕末維新时期から明治初期の頃の三田の土壌

キリスト教を受容した背景を考えると、幕末維新时期から明治初期にかけての三田という地で生きた人達の土壌、風土が大きく関係しているのではないだろうか？

## 開明的な土壌 ↓ 九鬼隆義の影響



- 伝統的慣習を廃し、人材登用（白洲退蔵、小寺泰次郎等の抜擢、門閥打破）し藩政改革を実施
- 西欧文化を積極的に導入
- 川本幸民（福沢諭吉の師、緒方洪庵と同門兄弟弟子）を通じ、福沢諭吉と懇意
- 廢藩置県後の三田の処世として、福沢諭吉の経済合理性を取り入れ「官より民」の流れを創る
- 明治五年秋、神戸へ進出

## 教育熱心な土壌 ↓ 川本幸民の影響



- 三田が生んだ幕末の蘭学者（日本化学の祖とも言われる）
- 幕末時、西洋の先進技術を日本に紹介し、自ら実用実験等を行う（ビール醸造は有名）
- 番書調所教授を辞し、明治元年三田に英蘭塾を開く。
- 英蘭塾からは九鬼隆一、鈴木清、元良勇次郎、前田泰一、佐治謙、澤茂吉等輩出

## 進取の精神が宿る土壌 ↓ 福沢諭吉の影響



- 大分・中津藩出身の明治新思想の先駆者
- 九鬼隆義宛の手紙が十七通残っており、明治初期の三田の指南的な役割
- 旧習の打破、個人の独立自尊を唱え、実学の必要性を説いた。また、三田藩士族には神戸への進出と商業への転身を勧めた
- 彼の創った慶應義塾へは九鬼隆一、前田泰一、澤茂吉等多くの若者が門を叩いた

## 開港の地「神戸」へ進出

- 九鬼隆義の流れから、西洋の文明に触れたいという思い
- 川本幸民の流れから、英語教育を実践したいという思い
- 福沢諭吉の流れから、神戸で商業を実践したいという思い

- アメリカン・ボード宣教師達の神戸への着任と出会い
- …神戸着任の会派はプロテスタント会衆派で職業観・倫理観・金銭観は資本主義、民主主義的要素が強い…
- 宣教師達の布教活動（英語教育、医療福祉活動等）

# 北海道開拓団「赤心社」

## の設立と発展に

### 旧三田藩クリスマスチャン

### が果たした役割は？

## 鈴木清が神戸で設立

赤心社とは明治十三年に旧三田藩士でクリスマスチャンの鈴木清が神戸で設立した北海道開拓団体。当時としては珍しい会社組織を備え、開拓民総てが株主となる綱領を掲げて、北海道浦河の郊外で開墾事業に成功する。幹部は旧三田藩のクリスマスチャンが占め、清廉で平等公平な労働を旨としたため、「ピュータン開拓」と呼ばれた。



鈴木清

入植一年で学校兼集会所を建

て、日曜を安息日として、講話集会を行つたが、信仰の強制はしなかった。この集会場が私立赤心学校（現荻伏小学校）と、元浦河教会に発展した。

## 澤茂吉が現地で活躍

明治一五年三田藩士澤茂吉は、摂津第三公会で洗礼を受けた後、家族とともに赤心社第二回開拓団を率いて、北海道日高郡荻伏に入植した。澤は慶応義塾に学び当時珍しい複式簿記を習得しており、経営の分析に長じていた。人望も厚く、開拓も軌道に乗っていった。神戸の鈴木清社長・現地支配人澤茂吉による両輪の活躍で農場経営、農産物加工、醸造、造材、商店経営など、赤心社は大企業に成長。現在も当地で事業を継続している。



澤茂吉

現在も当地で事業を継続している。

## 向井裕蔵は澤茂吉の遺志を

## 継いで赤心社興隆

明治四二年澤茂吉の死後、現地総支配人の職責を継いだ向井裕蔵は、三田藩士の

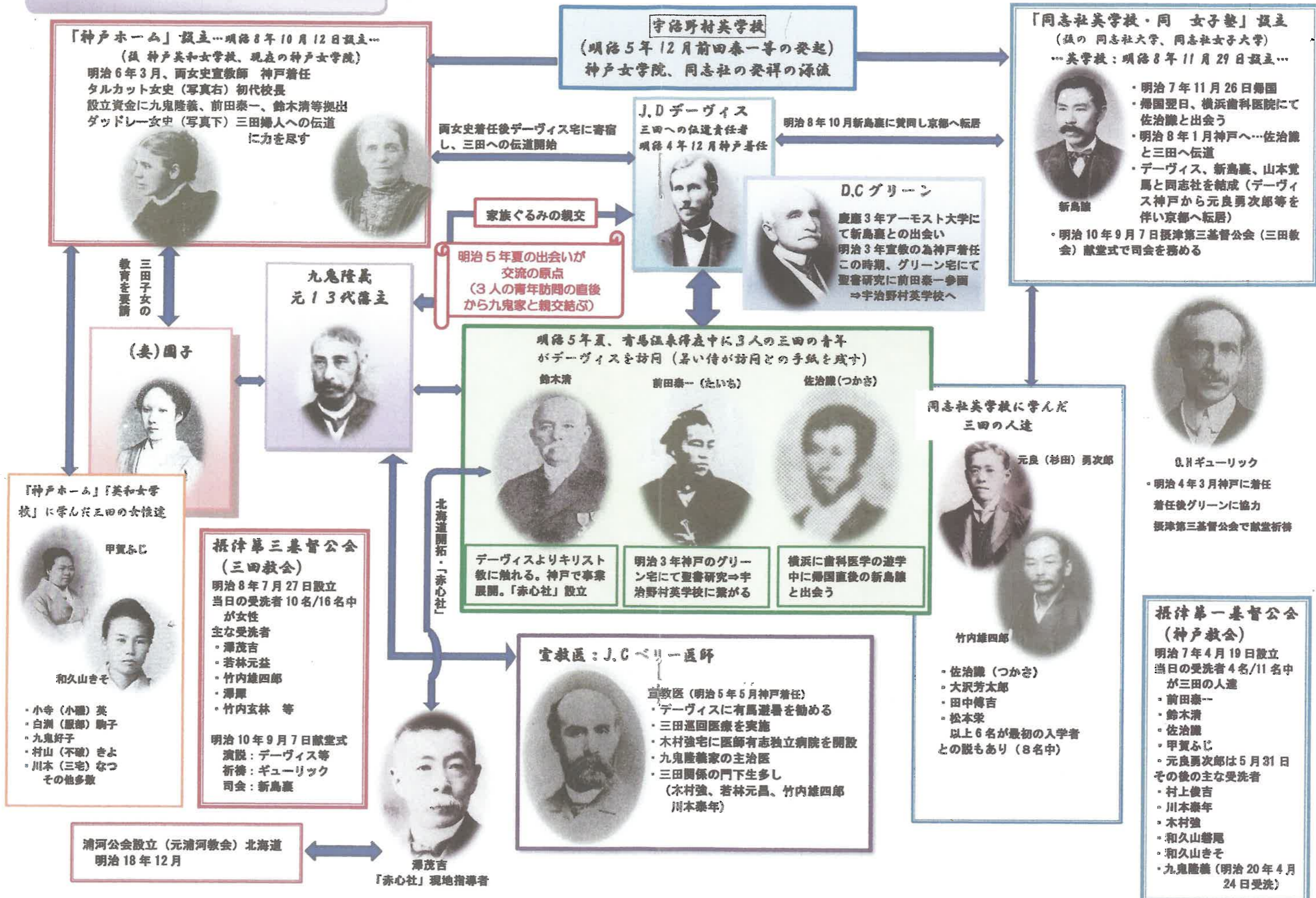
向井家四男として生まれ、一八歳の時、赤心社に入社し、澤茂吉に随伴して浦河町荻伏村に入植した。明治二〇年元浦河教会で洗礼を受け、明治四一年澤茂吉が病に伏してから代行として任に当たり、澤の亡き後も赤心社を隆盛ならしめた。明治四三年赤心社の開拓した荻伏村は「共同輯睦（しゅうぼく）良好」の模範村として内務大臣表彰を受けた。

## 番外編コラム

イザベラバードが三田で訪問した内科医宅は、のちに赤心社の開拓村を救った竹内雄四郎宅

英国婦人旅行家イザベラバードは、明治新政府の庇護のもと、日本各地を旅し、「日本紀行」という旅行記を著した。そのなかに明治十一年三田を訪れ、当地の内科医宅に招待された記事がある。この内科医は竹内玄林で継嗣雄四郎は摂津第三公会（摂津三田教会）で洗礼を受けたばかりであった。彼は後に同志社病院の職をなげうって無医村状態で困窮していた北海道の赤心社開拓村（荻伏村）に単身赴任。二年後には、家族も呼び寄せ、終生荻伏で奉仕した。

三田とキリスト教—相関図—



## キリスト教系学校の 設立に旧三田藩の人々 が果たした役割とは？

### 女性宣教師に子女の教育を託 した旧三田藩士たち

明治五年、神戸の宇治野村にアメリカン・ボードのグリーン氏や旧三田藩士の前田泰一らが発起人となって、英学校を開校、校長をデーヴィスとした。

翌年、女性宣教師タルカット女史、ダッドレー女史が神戸に着任し、のちの神戸女学院につながる神戸ホームを開設した。旧三田藩主、藩士たちは財政的にも協力し、三田藩主夫人九鬼園子をはじめ三田



ダッドレー・タルカット

藩士の多くが子女を神戸ホームの寄宿舎に入寮させた。また宣教師の家庭に預けて英語を身につけさせた。

### 神戸女学院の前身神戸英和女 学校は旧三田藩大参事宅

明治七年四月、宇治野村英学校は手狭となったため、山本通の神戸ホームに移転するまでの一時期、神戸英和女学校として北長狭通りの白洲退蔵邸に移る。神戸ホーム設立について最も力を貸したのが九鬼家をはじめ子女を学ばせている父母たちと、神戸のクリスチャンで、八百ドルを寄付している。また山本通の神戸ホーム建設土地買収は三田藩士鈴木清の名義でなされた。明治十二年東隣の白洲旧邸を買い、講堂を建築。明治二十七年神戸女学院の名称に落ち着いた。



白洲退蔵

### 松陰女学校の設立にも

### 旧三田藩主の協力があつた

聖公会（英国国教会系）が明治二五年神戸に松陰女学校を開校した当時の校舎

は九鬼隆義の別荘の一部を借用したもので北野の三本松があつた少し南にあたる同志社開校時の入学生は

### 旧三田藩藩士が大半

明治六年設立の宇治野英学校にはデーヴィスを主任教師として英語を通じて海外事情を学ぼうとする旧三田藩若手藩士も集まった。翌年同英学校は廃止されたが、キリスト教の感化を受けた旧三田藩士とその子女四人が摂津第一公会（神戸教会）設立時の第一号信者として受洗した。宣教師の資格を持ってアメリカより帰国した新島襄が学校設立に取り掛かったのはまさにこの時期であつた。デーヴィスは新島の教育に対する情熱にうたれ、初代教員として京都に同行する。明治八年官許同志社英学校が開校した時、一回生として入学したのは、わずか八名。うち



新島襄

六名を三田藩出身者（杉田勇次郎・佐治職・田中傳吉・大沢芳太郎・竹内雄四郎・松本栄）が占めた。

## 同志社の設立許可に協力した

### 旧三田藩出身文部官僚

明治初期文部省はキリスト教系の学校開設に消極的で、新島襄の同志社設立にも難色を示していた。文部大輔(だいやう)田中不二麿を説得したのが、田中の信頼する部下で三田藩出身の九鬼隆一小丞



九鬼隆一

(しようじょう)

だった。「京都府民の反対運動が起きないこと」を条件に設立許可を出したが、京都府顧問山本覚馬の理解と協力で、同志社英学校は明治八年開校する。

## 番外編コラム

創立時の神戸女学院で学んだ旧三田藩士の子女の活躍

甲賀フジは、三田藩士甲賀政之助忠輝次女。父が早く亡くなったため、藩主の子どもの子守を勤めていた。藩主夫人園子がデーヴィス家の子守として遣わし、デーヴィス家に感化されたフジは三田で最初の女性キリスト教徒となった。神戸英和女学校第一回卒業生。明治十年米国に留学。幼稚園の保育資格を取得した日本人最初の保育留学生でもある。帰国後日本女子大付属豊明幼稚園主任、森村学園幼稚園の主事を勤め、日本の幼児教育の発展に貢献した。

和久山キノは、三田藩士和久山磐尾の長女。神戸ホームに入学し、明治一五年洗礼を受ける。神戸英和女学校三回卒。日本人として最初の保育指導者となり、関西の幼児教育発展の基礎を築いた。明治二四年から四五年間頌栄幼稚園に奉職し、幼稚園園長・頌栄保育伝習所所長を歴任した。

米国より帰国直後の新島襄に歯の治療を施したのは旧三田藩士佐治職(つかさ)

旧三田藩士佐治職は明治七年四月神戸教会で洗礼を受けた。直後、医療伝道の一環として歯科を学ぼうと、横浜の歯科医エリオットの門下生となった。同年十一月、函館脱出以来

十年ぶりに帰国したばかりの新島襄が横浜のエリオットのもとを訪問した。このとき新島の歯を治療したのが佐治。ここで新島と知己を得た佐治は、同志社英学校で学んだのち、兵庫県医師開業試験に合格して口中科医の免許を得た。二年の米国留学後、明治二十年大阪で開業、晩年は故郷三田で地域住民の治療に専念した。

### 三田教会献堂式の司会は新島襄

明治八年摂津第三基督公会(三田教会)が設立。明治十年三田本町に教会堂が完成、献堂式が行われた。この日の説教はデーヴィス・澤山保羅・グリーンの名、司会は後の同志社創立者新島襄であった。

川本幸民の甥 川本恂蔵は、同志社で学び同志病院の院長になった

三田藩医川本泰年(幕末の大学者川本幸民の兄)の長男恂蔵は、明治十三年同志社英学校に入学、原田助から洗礼を受けた。明治十七年ベリに伴われ渡米、オベリン大学やペンシルベニア医科大学に学び、明治二十四年帰国。ベリーの創設した同志社病院に副院長として勤務。ベリー帰国後院長に就任した。



# キリスト教関連年表

名前 青字：宣教師達 赤字：元三田藩士達

和暦	西暦	キリスト教宣教師と三田の人達の交流	備考
元治元年	1864	新島襄：函館より米国商船にて密出港	
慶応3年	1867	宣教師グリーン アーモスト大学で新島襄と出会う	
明治3年	1870	3月 宣教師グリーン神戸に着任 (前年に横浜港着も、宣教未開拓地の神戸を拠点に選定) 前田泰一等が宣教師グリーン訪問(澤山保羅、影山耕造と)	
4年	1871	3月 宣教師ギューリック神戸に着任 この頃から、三田藩士族屋敷町からの転出増加 12月1日 宣教師デーヴィス神戸に着任	
5年	1872	5月 宣教医ペリー神戸に着任(九鬼家主治医となる) 8月 宣教医ペリーの薦めでデーヴィス有馬温泉に避暑滞在 8月4日 三田藩士族 有馬温泉滞在中のデーヴィスを訪問 (前田泰一、佐治謙、鈴木清の若い元侍3人…) 元藩主隆義の妻(園子)三田旅館滞在中のデーヴィスを訪問・挨拶 12月16日 宇治野英学校(デーヴィス校長)前田泰一等発起人	九鬼家と宣教師交流始まる
6年	1873	2月 キリシタン禁制の高札撤去 3月 婦人宣教師ダッドレー、タルカット神戸着任(デーヴィス宅寄宿) (三田の婦人達に伝道開始) 3月 神戸栄町に志摩三商会設立 5月 九鬼隆義長女肇(ちょう)キリスト教教義により葬儀 8月 宣教医ペリー三田にて巡回医療(その後毎月1~2回来所) 夏 デーヴィス三田に2週間滞在(青年士族にヨハネ伝講義) 9月 宣教医ペリー元三田藩医木村強宅に医師有志独立病院開設 10月 ダッドレー、タルカット神戸花隈の前田兵蔵宅で子女教育開始 女子教育の私塾設立(英語、唱歌の教授所)	九鬼園子三田の子女教育を奨励 宇治野村英学校発展的に解消
7年	1874	4月 前田兵蔵宅の私塾を神戸北長狭通の白洲退蔵宅に移す 4月19日 神戸・摂津第一基督公会設立(前田泰一、佐治謙 鈴木清等洗礼者11名中5名が三田関係者) 7月 佐治謙 歯科医学勉学のため横浜へ 11月26日 新島襄帰国(横浜港)し、翌日歯科医院にて佐治謙と出会う	長老に前田泰一を選出
8年	1875	1月 新島襄 神戸のデーヴィス宅に止宿し三田への伝道(佐治謙同行) 7月27日 三田・摂津第三基督公会設立(三田陣屋大広間) ギューリックより澤茂吉、若林元昌等16名受洗 10月12日 白洲退蔵宅私塾を神戸・山本通に「神戸ホーム」とし移設 神戸女学院創立日(土地買収の名義人は鈴木清) 10月19日 デーヴィス住居を京都に(新島襄の学校設立に賛同して) 11月29日 新島襄、デーヴィス「同志社英学校」創立 デーヴィスに従い神戸より、佐治謙、元良勇次郎等同志社に入学 (佐治、元良の他、竹内雄四郎、大沢芳太郎、田中伝吉、松本榮) 12月27日 ギューリック主宰の「七一雑報」発行(編集長村上俊吉)	神戸女学院創立日 同志社創立日 入学者8名中 6名が三田関係との説あり

和暦	西暦	キリスト教宣教師と三田の人達の交流	備考
10年	1877	1月 前田泰一監獄伝道を開始(日本最初の教諭師) 9月7日 摂津第三基督公会(三田教会)献堂式 (司会：新島襄 祈祷：ギューリック、演説：デーヴィス) 長老に澤茂吉を選出	
11年	1878	3月 九鬼隆義5女美代(5歳)キリスト教教義による葬式 11月21日 摂津第一基督公会献堂式(長老：鈴木清) 聖書拝読：三田教会澤茂吉、講演：村上俊吉 11月26日 英国女流旅行作家イザベラ・バード三田来訪 屋敷町の内科医・竹内玄林宅訪問	「日本紀行」に著す
13年	1880	3月9日 鈴木清を中心に神戸に北海道開拓会社「赤心社」設立	栄町3丁目に設立
14年	1881	1月 赤心社第一回株主総会 北海道開拓移民募集し第一次入植団を送る	
15年	1882	4月 澤茂吉「赤心社」入社 第二次入植団を引率し7月15日浦河入植	荻伏村開村日
20年	1887	4月24日 九鬼隆義 神戸教会に於て受洗	

## 摂津第一基督公会(神戸教会)



明治7年4月19日

前年9月から前田泰一経営の書店の後半分で日曜礼拝や聖書研究を行っていた(「元町講義所」)が、この時に宣教師の周りに集まった青年達を中心に公会(教会)が設立されグリーンにより11名が受洗した。(写真左：建物前に立つのは前田泰一といわれている)

明治11年11月21日

その後、会員相互が経済負担をする「自給教会」を目指し、自分たちの会堂建設への準備に着手して北長狭通6丁目に米国開拓期洋式の新会堂が完成した。この時、川本泰年、鈴木清が募金活動の委員に選出され中心となって活動した。(写真右)

開堂式には三田教会の澤茂吉が聖書を拝読し、鈴木清が教会設立の由来、事情を演べ、村上俊吉が演説を行った。

## 摂津第三基督公会(三田教会)



明治8年7月27日

三田陣屋跡大広間にて設立された。ギューリックから澤茂吉、若林元昌を始め16名が受洗したが10名が女子であり、これはダッドレー女史の力に寄るところが多い。参列者は150名であった。

明治10年9月7日

三田本町上に教会堂が完成し献堂式が挙行された。演説者はデーヴィス、澤山保羅、グリーン3氏で献堂祈祷はギューリック、司会は新島襄が勤めた。参列者は京阪神から250名であった。(写真)

(参考) なお、「摂津第二基督公会」は明治7年5月24日に大阪に設立された。

## 出典・参考資料

- 1 Unbeaten tracks in Japan  
Isabella Bird  
Cambridge library collection 1880
- 2 三田藩士族とキリスト教  
小林昭雄  
歴史と神戸 2001
- 3 近代化と宗教/三田藩とピューリタニズム  
川崎喜久子  
中央公論事業出版 1994
- 4 神戸女学院百年史  
神戸女学院百年史編集委員会編  
神戸女学院 1976
- 5 松蔭女学校の創立と発展  
校史編纂委員会  
松蔭女子学院 1992
- 6 近代日本と神戸教会  
日本基督教団神戸教会編  
創元社 1992
- 7 回顧  
村上俊吉  
警醒社書店 1912
- 8 佐治職伝/上方歯科医人伝(その二)  
京極三郎  
デンタルダイヤモンド社 1995
- 9 愛荻の道  
竹内一雄編  
(株) だいしょう 1994

## 北摂三田とキリスト教

発行 NPO 法人 歴史文化財ネットワークさんだ  
問い合わせ先 三田ふるさと学習館  
〒669-1532 三田市屋敷町 7-33  
TEL/FAX 079-563-5587